

## 報 告

## 子育てに対する父親の思いの変化

—フォーカス・グループ・インタビューによる父親の語りから—

中 村 恵 美

## 〔論文要旨〕

本研究は、父親の子育てに対する思いの変化を明らかにするため、子育てサークルに参加している父親5名にフォーカス・グループ・インタビューを行った。質的帰納法的分析の結果、妊娠がわかった時から子育ての知識を得た父親は、子育ては自分の生活の一部であるとの思いから、出産直後から積極的に家事や子育てを楽しんでいた。一方、子育ての知識がなかった父親は、不安や混乱を抱き、仕事と家庭の両立に負担を感じつつ手伝えることを模索し、やがて「仕方ない、今は我慢」と感じるようになっていた。しかし子育てを通して、子どもの成長への喜びや期待、新しい自分の発見などにより「自分自身が楽しむ子育て」という思いに変化していた。以上から父親は、子どもの誕生前に子育ての知識を得ることや、夫婦で子育てをしている感覚、子育ての中での楽しみや新しい発見がきっかけとなり、父親の子育てに対する思いが肯定的に変化する可能性が示唆された。

Key words : 父親の子育て, 父親の子育てに対する思い

## I. はじめに

近年、父親が子育てや家事に関わっていないことが女性の継続就業を困難にし、少子化の一因となることが指摘され<sup>1)</sup>、健やか親子21においても、父親の育児を促進することが重要な目標の1つとされた。さらに2010年には、厚生労働省雇用均等・児童家庭局が委託事業として「イクメンプロジェクト」を開始させるなど、父親自身が子育ての喜びを実感し、親としての責任を認識しながら、仕事と子育てを両立できるよう支援するという、これまでの「母親支援のための父親の育児参加」という視点から、「父親の主体的な子育てに向けた支援」へと方向性が転換してきた。

成瀬らは、父親の子育てを促進するうえで、家庭と仕事の両立を肯定的に捉えることができるような働きかけが有効であり、そのためには、家庭生活と仕事生

活がポジティブに影響し合っていることが望ましいと指摘している<sup>2)</sup>。父親の子育て支援として、国や地方、会社単位でさまざまな施策が講じられているが、平成24年度の父親の育児休業取得率は1.89%<sup>3)</sup>と未だ伸び悩んでいることから、依然として職場風土など社会的な要因が障壁になっている<sup>4)</sup>と推測される。ならば見方を変え、家庭において子育てに対する肯定的な感情を抱くことができれば、これがポジティブフィードバックとなり、家庭と仕事を肯定的に捉えるきっかけに成り得るのではないかと考えた。

そこで実際に子育てを行っている父親が、子育てや母親との関わりの中で、どのようなことをきっかけに子育てに対する思いが肯定的に変化したのか明らかにすることで、父親の主体的な子育てに向けた支援の示唆が得られると考えた。

Change of Thought of Father for Child-rearing ; Father's Stories from Focus-group-interview

(2754)

Emi NAKAMURA

受付 15. 7.27

産業医科大学産業保健学部広域・発達看護学講座 (研究職 / 看護師)

採用 16. 1.25

別刷請求先: 中村恵美 産業医科大学産業保健学部広域・発達看護学講座

〒807-8555 福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1

Tel : 093-691-7147 Fax : 093-691-7183

## II. 研究目的

父親の主体的な子育てに向けた支援の示唆を得るため、子育てを行っている父親らが、どのようなことがきっかけで子育てに対する思いが肯定的に変化したのか明らかにする。

## III. 用語の定義

父親の主体的な子育て：父親が子育ての楽しみや喜びを実感しつつ、子育てを担う親としての責任や役割を認識しながら積極的に子育てを行うこと。

## IV. 研究方法

### 1. 調査方法

平成24年8月、子育てを行っている父親5名を対象にインタビューを実施した(表1)。参加への任意性を確保するために、子育て中の親が中心となり情報提供やイベントを企画している子育てサークルに、研究目的や方法を記した依頼書を配布して協力者を募った。

データ収集は、リラックスした雰囲気自由に語り合うことで父親間に相互作用が生まれ、子育てに対する思いの変化や広がりを引き出すことができると考え、フォーカス・グループ・インタビューを行った。インタビューは、第一子妊娠から現在までを振り返り、家事や子育てに対する思い、仕事や職場の状況、子育てによって得られた思いなど、研究者がファシリテーターとして話題提供しつつ、父親同士自由に語り合ってもらった。なお、他者の意見に引きずられる可能性に対しては、対象者の発言や表情などを注意深く観察しつつ、異なる意見を発言しやすい雰囲気を作りつつ進行した。インタビュー内容は、対象者の許可を得てICレコーダーで録音した。

### 2. 分析方法

データの中のコンテキストの理解を重視し、そこに反映されている人間の認識、行為、感情、そしてそれらに関係している要因や条件などをデータに則して丁寧に検討するために、逐語録にした録音内容を意味ある文脈単位でナンバリングしてデータ化した後、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチで用いる分析ワークシート<sup>5)</sup>を使用し、質的帰納法的な分析を行った。

表1 対象者の背景

デモグラ フィック変数	A氏	B氏	C氏	D氏	E氏
年齢	30歳代	30歳代	30歳代	40歳代	30歳代
子どもの数	2名	2名	2名	1名	2名
職種	自営業	会社員	自営業	会社員	会社員
母親の就業	あり	あり	あり	あり	あり

まず家族、家事や子育て、仕事などに対する思いや行為に関係しているデータを抽出した。類似性や相違性を検討しながらグループ化し、逐語録に戻り検討を重ねつつ、概念名および定義付けを行った。なお分析結果の妥当性を高めるため、解釈・意味付けの思考プロセスを分析メモとして残し、質的分析に精通したスーパーバイザーから指導を受けた。

### 3. 倫理的配慮

研究者が所属する大学の倫理委員会の承認を得た(受付番号：第H24-082)。対象者には、研究目的と方法、データの匿名性・守秘性の厳守、研究参加の自由と参加中止の保証、研究結果の公表および研究対象者への開示について文書と口頭で説明し、同意書に署名を得た。

## V. 結果

インタビュー時間は約1時間30分であった。研究目的に基づき抽出した発言内容を解釈した結果、15概念が形成され、4カテゴリーに分類した(表2)。以下概念名を【 】に示した。父親の発言は「斜体」で示し、発言の意味内容を損なわぬよう父親の語りはそのまま記載したが、読み手に理解しづらい方言は可能な限り標準語に変換した。以下、カテゴリー毎に関連する概念を述べる。

### 1. 母親の妊娠や子どもの誕生を機に生じた思い

【母親にはかなわない】、【妊娠期に得た父親としての自覚】、【突然生じた父親役割への戸惑い】の3概念が形成された。

父親らは「子どもを産むって凄いことですよ。男性には絶対できない経験(A氏)」、「出産後は24時間家事育児ですからね(C氏)」、「比べものにならないというか、比べちゃいけない気がします(B氏)」など、母親に対する感謝や尊敬の思いを含む、母親にかなわないという思いを抱いていた。しかし第一子誕生の時点では、二

表2 各カテゴリーに含まれる概念および定義

概念番号	概念名	定義
カテゴリー1：母親の妊娠や子どもの誕生を機に生じ思い		
1-①	【母親にはかなわない】	妊娠・出産を経験した母親に対する尊敬の念と、子どもと接する時間が長い母親とは同じレベルで子育てできないという謙遜の念を含む母親への思い
1-②	【妊娠期に得た父親としての自覚】	妊娠がわかった時から妊娠出産や子育ての知識を得ることで、早い時期から意識しはじめた父親役割に対する自覚
1-③	【突然生じた父親役割への戸惑い】	出産後に初めて自覚する父親意識や、突然生じた父親役割に対する戸惑い
カテゴリー2：子育てに対する思い		
2-①	【家事・子育ては日常生活の一部】	家事や子育ての時間と、自分の時間を区別するのではなく、すべてを含め自分の日常生活の一部であるという思い。1-②の状況で生じた
2-②	【手伝い感覚の家事や子育て参加】	家事や子育ては主に母親が行うものであり、父親はできることを見つけて手伝うという思い。1-③の状況で生じた
カテゴリー3：実施している子育てに対する思い		
3-①	【子どもと過ごす時間を自分の楽しみにするための工夫】	子どもと一緒に目標を決めて何かに取り組んだり、家族イベントを考えたりすることは、子どもと過ごす時間を自分の楽しみにするための工夫であるという思い。主に2-①から生じた
3-②	【家族中心のタイムマネジメント】	時間管理や家事の負担は、母親の価値観を尊重し、家族全員の生活が効率よく送るためであるという思い。主に2-①から生じた
3-③	【子育てを共有するためのコミュニケーション】	夫婦のコミュニケーションは、子育てに関する母親の悩みや喜びを共有するためであるという思い。主に2-①から生じた
3-④	【母親のストレス解消のためのコミュニケーション】	夫婦のコミュニケーションは、母親の家事や子育てによるストレスを解消するためであるという思い。主に2-②から生じた
3-⑤	【子育てを手伝うためのタイムマネジメント】	子育てを手伝うためには、自分の時間を管理調整して都合つける必要があるという思い。主に2-②から生じた
3-⑥	【子育ての時間を確保するための仕事環境の調整】	周囲へ協力を依頼したり仕事の効率をあげることは、子育ての時間を確保するためであるという思い。2-①、2-②から共に生じた
カテゴリー4：子育てを実践する中で変化した思い		
4-①	【子育て・親育ちの新たな発見や楽しみ】	子どもの成長を見た時の驚きや喜び、子どもが大きくなった時のことを考える楽しみの他、子どもの成長を心待ちにしている自分の新たな一面を知った時の驚き。すべての父親が子育てを実践する中で生じた思い
4-②	【自分自身が楽しむ子育て】	父親として子どもの世話をするのではなく、子どもと一緒に過ごすことを自らの楽しみに感じるという思い。主に4-①から生じ、2-①を高める
4-③	【他の父親よりは頑張っている】	十分とは言えないかもしれないが、自分としては一般的な父親に比べると子育てに参加しているという思い。主に3-④～⑥から生じた
4-④	【仕方ない・今は我慢】	子育てを手伝うために、自分がやりたいことがあっても今は我慢しなければいけないという思い。主に4-③から生じ、2-②を高める

つの異なる思いが抽出された。

A, D氏は、「妊娠がわかった瞬間にスイッチが入りました(A氏)」、「両親学級などにも参加しましたが、その後で自分が本で調べてました(A氏)」など、妊娠がわかった時から妊娠出産や子育ての知識を得て、「(母親の妊娠中や出産後の体調などについて)今がどんな状態か知っていれば、その時に掛ける言葉は変わるし、労る言葉なども自然に出てきた(A氏)」、「育児が大変だと知っておけば、父親としての準備も早くできる(D氏)」など、早い時期から父親役割を獲得することができていた。

一方B, C, E氏は、「一人目の時は子どもが生まれたらその時から父親になる感じでした(B氏)」、「やっぱり戸惑いました。不安というか、ある日突然『今日からお父さんですよ』と言われても、どうすればいいかわからなかった(E氏)」、「一人目と二人目じゃ大違いでしたよ。経験というか知識の差なのでしょうね(C氏)」など、子どもの誕生により初めて父親役割を自覚し、戸惑いを抱いていた。

## 2. 子育てに対する思い

【家事・子育ては日常生活の一部】、【手伝い感覚の家事や子育て参加】の2概念が形成された。

第一子誕生時、妊娠・出産や子育ての知識を得ることで早期に父親役割を獲得していたA, D氏は、「知識があれば(家事や子育てに関して)できること、やるべきことが見えてくる(A氏)」、「子育ては時間を作っているものではない。時間を作って歯を磨くとは言わないでしょ(D氏)」、「子どものための家事育児というより、家全般の中の一つというか、ごく自然なことであって、手伝うという感覚はなかったですね(A氏)」など、家事や子育ては、自分の日常生活の一部であるという思いを抱いていた。

一方、突然の父親役割発生で戸惑ったB, C, E氏は、「何をすればいいか聞きながらしてました(B氏)」、「『手伝うよ』と言うと、なぜか機嫌悪かったですよね(C氏)」、「家事と子育てが被っているから、男性ができることは子育てに特化すると非常に部分的で、主体的な感覚がない部分がありました(E氏)」など、家事や子育ては、母親が主に行うもので、父親はできることを見つけて手伝うものだという思いを抱いていた。

## 3. 実施している子育てに対する思い

【子どもと過ごす時間を自分の楽しみにするための工夫】、【家族中心のタイムマネジメント】、【子育てを共有するためのコミュニケーション】、【母親のストレス解消のためのコミュニケーション】、【子育てを手伝うためのタイムマネジメント】、【子育ての時間を確保するための仕事環境の調整】の6概念が形成された。

父親らは、「ちょっとしたお出かけでも、カレンダーに印を付けて家族のイベントとして準備したり(A氏)」、「休みの日にサプライズ(子どもに秘密にしたままイベントを企画)するのが好き。子どものためというより僕が楽しんでいる感じ(D氏)」など、子どもと一緒に目標を決めて何かに取り組んだり、家族イベントを考えたりすることは、子どもと過ごす時間を自分の楽しみにするための工夫であるという思いから、さまざまな工夫を行っていた。また時間管理や家事に対しては、「お互いにストレスなくできることをやればいい。寝る前や朝の短い時間にちょっとしたことでもできることはある(A氏)」、「作業量ってものではない。その時家庭が上手く運用するよという分担であって、相手の価値観に寄り添えばいい(D氏)」、「朝(保育園に行く)子どもの

準備って大変ですよ。奥さんは自分の準備もあるし。僕の方が身軽だから、僕がゴミを集めて仕事に行く時に捨てる(C氏)」など、家族全員の生活が効率よく送れるようにするためであるという思いを抱きつつ、母親の価値観を尊重しながら行っていた。

母親とのコミュニケーションについては、「子どもと直接関われなくても、今日一日何をしたのか聞いて、問題があれば夫婦で考える。すると妻も私も一緒に子育てをしているという感覚が芽生える(A氏)」、「分かち合っているということですかね。妻の大変さ、楽しさを。それを日々伝えていくことで奥さんの負担は減る(D氏)」など、母親と子育てに関する悩みや喜びを共有するためであるという思いを抱いていた。

一方B, C, E氏は、突然の父親役割発生で戸惑いながら手伝い感覚で家事・育児を行っていた頃を振り返り、「最初の子の時は、奥さんのストレス解消のために時間があれば話を聞いてあげないと、と思っていました。正直あまり楽しくなかったですね(B氏)」など、夫婦のコミュニケーションは母親のストレス解消のためであるという思いや、「早く帰って手伝わないといけない、という義務的な感じで帰っていました(E氏)」、「子どもの世話を手伝って息抜きにパチンコに行く、みたいな感じでした(C氏)」など、自分の時間の時間管理や調整は、子育てを手伝うためにやむを得ないという思いを抱いていた。

なおすべての父親が、仕事や職場の調整は子育て時間を確保するために必要であるという思いを抱いていた。

## 4. 子育てを実践する中で変化した思い

【子育て・親育ちの新たな発見や楽しみ】、【自分自身が楽しむ子育て】、【他の父親よりは頑張っている】、【仕方ない・今は我慢】の4概念が形成された。

父親らは、子育てを通して子どもの成長を見ながら「未来像を想像してこうなったらいいなと思ったり。何よりそんなことを楽しみに思っている自分に一番ビックリして、新しい自分を発見したような感じ(D氏)」など、子どもが大きくなった時のことを考える楽しみや、自分の新たな一面を知った時の驚きなど、子育て・親育ちの新たな発見や楽しみを感じていた。またこれらがきっかけとなり、「自分の時間と言われても、家族と一緒にいるのも自分の時間ですから(D氏)」、「家族サービスという言葉自体、違和感を感じてきました(A氏)」、「ゴ

ルフやパチンコと同じように、子育てをしてみたら子育てにもはまれると思う(D氏)など、「父親として子どもの世話をする」という思いから、自分自身が楽しむ子育てへと思いが変化していた。

一方B, C, E氏は手伝い感覚で家事・育児を行うことによりストレスを感じ、その結果、「男性としては嫁さんと比較なんて絶対できないわけで、仕方ないから周りの男性と比較して『こいつよりも俺の方がやっているだろ』という自己満足みたいな気持ちを支えだった(C氏)」など、他の父親よりは頑張っているという思いが生じ、「大変なのは出産前から3, 4歳くらいまで。その後は自分の時間というか、好きなことやってもいいかなと思って我慢していた部分もある(E氏)」など、今は我慢という思いが強くなっていた。

しかし「大変だけど嫌じゃなくなってきた。やっぱり子どもといると楽しい。子どもが大きくなるにつれて貴重な時間というか、今を楽しみたいと思うようになってきた(C氏)」、「奥さんが笑っているとこちらも幸せを感じる。子どもや奥さんのためにと考えてやっていたことも、結局自分がやりたくてやっているという感じになってきた(B氏)」、「お風呂など最初は大変だったけど、一緒に遊べるようになると楽しくなってきた。一緒に入れるのも今だけだしね(C氏)」、「(子育てサークルなどに)最初は奥さんに付いて行ってる感じだったけど、そのうち苦じゃなくなっただし、イベントがあれば自分から誘って行くようにもなった(E氏)」、「早く帰ることに抵抗がありました、子どものためという思いから、早く帰って子どもに会いたいという思いになってきました(E氏)」など、家族と過ごす時間の中で、子育て・親育ちの新たな発見や楽しみをきっかけに、A氏やD氏と同様に「父親として子どもの世話をする」から、自分自身が楽しむ子育てへと思いが変化していた。

## VI. 考 察

### 1. 妊娠・出産・子育ての知識が及ぼす子育てに対する思いの変化

家事や子育てに対する意味づけには、妊娠・出産や子育てに関する知識の有無に関係して、「家事と子育てどちらも自分の生活の一部である」と、「家事と子育ては別であり、父親はできるところを手伝う」の二つが見い出された。

母親が妊娠中に両親学級に参加し、母体の変化や子どもの成長発達について学習してわが子の誕生を迎え

た父親らは、出産直後から自然に家事・子育てを自分の生活の一部と捉えることができていた。これは、妊娠・出産に伴う母親の心理的・身体的変化や、子育ての知識や技術を習得しておくことで、父親としていつ何をすべきか、何ができるかなどがイメージでき、戸惑うことなく母親への身体的・心理的支援や子育てができたこと、またそれによって満足感や効力感を得て、より意欲が向上したためだと考える。

一方、出産や子育ての知識がないまま子どもの誕生を迎えた父親は、出産後に不安や混乱を抱いたまま、家事・育児の中で「手伝えること」を模索し始めていた。

森田らは、子どもが誕生する前に自分の負担を予期していなかった父親は、実際に子育てが始まってから負担の大きさに気づき、子育てへの意欲が低下する可能性があることを指摘している<sup>6)</sup>。本研究の父親らも、子どもの誕生前に子育ての知識があるか否かによって子育てに対する意味づけに違いが生じ、その後の子育て行動に影響を及ぼしていたことから、父親が出産や子育ての知識を得ることの重要性を伝え、その機会を作る必要があることが示唆された。

### 2. 子育てに対する思いの違いが及ぼす子育て実践に対する思い

本研究の父親は皆、母親とのコミュニケーションや、子育て時間を確保するための仕事の調整をしていた。特に家事や子育ては日常生活の一部であると思っていた父親は、夫婦のコミュニケーションは、母親の悩みや子育ての喜びを共有するためであり、家事・育児が円滑に行えるよう母親と一緒に考えたり、家族と過ごす時間を楽しむための工夫をしたりすることにより、自分自身が子育てをしているという思いをより一層高めていた。

佐藤らは、父親が育児に参加したり母親の精神面を支えたりすることでも、父親自身の子育てに対する肯定的感情が高まることを明らかにしている<sup>7)</sup>。本研究の父親も、母親と家事や子育ての悩みや喜びを分かち合ったり、一緒に考えたりしたことで母親との情緒的関係が一層深まり、子育てに対する肯定的感情がより高まったと考える。

一方、家事や子育ての中で手伝えることを模索していた父親らは、自分の時間を犠牲にして手伝っていると感じたり、母親とのコミュニケーションは「母親のストレス解消のため」との思いから、父親自身が楽し

みや喜びを感じることができずストレスとなり、「仕方ない」や「今は我慢」という思いを引き起こしていた。

子育てを円滑に行うためには、夫婦のコミュニケーションが重要である<sup>7)</sup>。特に子育て中の母親は、今日あったことを話し合う時間が欲しいというニーズが高く、十分に話を聞いてもらえない場合、父親に不満を抱く傾向も指摘されている<sup>4)</sup>。本研究の父親らも、このことを十分承知していたが故に、自分にできること、やるべきことを模索した結果、母親とのコミュニケーションに対して「母親のストレス解消のため」という思いや、母親のために自分を犠牲にして時間を作っているという思いに陥ったと考える。これらのことから、父親の主体的な子育ての支援において、単に母親とのコミュニケーションや時間管理を勧めるだけでは逆効果になる可能性があるため、その目的を伝えることが重要だと考える。

### 3. 子育てを通して得られた「自分自身が楽しむ子育て」という思いへの変化

手伝い感覚だった父親らも、子育てを通して子どもの成長への期待や喜びを感じたり、新しい自分を発見したことなどをきっかけに、次第に父親として子どもの世話をするという思いから、子育てを自分の時間として楽しむという思いに変化し、子育てサークルや父親の会などにも積極的に参加するようになっていた。

父親の子育てには、父親が家庭と仕事の役割を両立することを肯定的に捉えることができるような働きかけが有効とされる<sup>2)</sup>。本研究でも、家事や子育てを「手伝う」という思いでは、家庭と仕事の両立が負担となり、子どもが小さい間は自己犠牲やむなしというネガティブな思いとなっていた。しかしそのような中、父親として子どもにしてあげられることや、子どもと一緒にできることが増え、そこから楽しみや新しい自分を見出すことができたことで、効力感や満足感が高まり、肯定的な思いに変化したと考える。さらに育児サークルなどで父親同士が話す機会を持つことも、自分が思いもしなかったところに子育ての楽しみがあることに気づくきっかけになったのではないかと考える。

以上から、父親は、子どもの誕生直後は子育てにネガティブな思いを抱いていたとしても、大変な時期を母親と乗り越え、日々小さな出来事や母親との会話の中から一つでも自分の楽しみや喜びが見い出せれば、子育てに対する思いが肯定的に変化する可能性が示唆

された。また、父親が子育ての喜びや楽しみを見い出すためのきっかけとなる機会や、父親同士で語り合う場を設けたりすることも、父親の主体的な子育てを支援するために有効だと考える。

### 4. 研究の限界と今後の課題

父親の子育てに対する思いには、仕事内容、子どもの年齢や人数、サポート状況、専業主婦か否かなどによっても異なるが、本研究は対象者数が少なかったためこれらを踏まえた分析が行えていない。今後は対象者の背景を絞り、置かれた状況における子育て参加の阻害因子や促進因子を明らかにし、個別性ある支援を検討する必要がある。

## VII. 結 論

子どもの誕生前に妊娠・出産や子育ての知識を得た父親は、子育ては自分の生活の一部であるとの思いから、出産直後から積極的に子育てを楽しみ、家事や子育てが円滑に行えるよう母親と一緒に考えたり、コミュニケーションを通して母親と子育ての悩みや喜びを共有したり、家族と過ごす時間を楽しいものにしようとして工夫したりすることより、一層自分自身が子育てしているという思いを高めていた。

一方、出産や子育ての知識がないまま子どもの誕生を迎えた父親は、不安や混乱を抱き、仕事と家庭の両立に負担を感じつつ、「手伝えること」を模索していた。その結果、ストレスフルな状況に陥り、「仕方ない、今は我慢」と感じていた。しかし子育てを通して、子どもの成長の喜びを感じたり、新しい自分を発見することで、次第に「自分自身が楽しむ子育て」という思いに変化していた。

以上から父親は、子どもの誕生前に子育ての知識を得たり、母親とのコミュニケーションを通して夫婦で共に子育てをしている感覚や、子どもとの関わりの中で小さな楽しみや新しい発見を得ることがきっかけとなり、父親の子育てに対する思いが肯定的に変化する可能性が示唆された。

本研究の実施にあたり、お忙しい中、調査にご協力くださいましたお父様方に、心より感謝申し上げます。

なお、本研究の一部は、第30回産業医科大学学会（2012）で発表しました。

利益相反に関する開示事項はありません。

## 文 献

- 1) 内閣府. 第4章 男性も女性も仕事と生活が調和する社会へ(ワーク・ライフ・バランスの実現). 少子化社会対策白書平成25年版, 2013:100-106.
- 2) 成瀬 昂, 有本 梓, 渡井いずみ, 他. 父親の育児支援行動に関与する要因の分析. 日本公衛誌 2009; 56:402-409.
- 3) 厚生労働省. 「平成24年度雇用均等基本調査」の概況. 2013:15-16.
- 4) 柳原真知子. 父親の子育て参加の実態. 天使大学紀要 2007;7:47-56.
- 5) 木下康仁. グラウンデッド・セオリー・アプローチの実際:質的研究への誘い. 弘文堂, 2003.
- 6) 森田亜希子, 森 恵美, 石井邦子, 他. 親となる男性が産後の父親役割行動を考える契機となった妻の妊娠期における体験. 母性衛生 2010;51:425-432.
- 7) 佐藤憲子. 父親の育児参加行動と母親の育児意識との関連. 北日本看護学会誌 2010;13(1):31-43.

## 会 合 案 内

日本小児科医会後援, 「子どもの心相談医」研修更新点数認定  
 第8回こども心身セミナー(第335回定例学術研究会特別例会)  
 笑いは薬—小児心身医療再考—

最近癌治療や免疫賦活効果で注目されている「笑い」は心身医療にも有用であると考え, 「日本笑い学会」の理事を務められる大平哲也先生(福島県立医科大学医学部疫学講座主任教授)を今年の客員講師にお迎えし, 「笑い」を多面的に取り上げたご講演をお願いしました。

所長・富田による基調講演は, 精神症状や神経症, 発達障害に必要な薬物療法について, 40年の経験による知見から行います。

会場は交通の便が良く, 大阪湾の夜景が美しい研修専門の都会派ホテルです。宿泊部屋はシングルルーム, ツインルームのみの受付となります。シングルルームご希望の方は, 数に限りがありますので, お早めにお申込み願います(シングルルームの場合, 5,000円の追加費用が必要)。

期 間:平成28年5月28日(土)13:00~29日(日)12:30頃まで<1泊2日>

会 場:ホテルコスモスクエア国際交流センター(大阪南港)  
 新大阪から約30分(大阪市営地下鉄とサークルバス利用)  
 関西国際空港から約50分(リムジンバス利用)

費 用:35,000円(食費・宿泊費込み 1泊2食分)  
 当研究会会員・過去セミナー参加者(カリヨンセミナー含む)は32,000円

◆日本小児科医会「子どもの心相談医」研修更新点数(5点), 日本小児科学会専門医点数(4点), 日本心身医学会認定医点数(3点)がそれぞれ認定されます。

パンフレット(申込書付)をご希望の方は下記までご連絡ください。詳細はホームページで。

<http://www.kodomosinsin.com/>

お問合せ・お申込みは こども心身医療研究所まで

〒550-0001 大阪市西区土佐堀1-4-6 TEL 06-6445-8701 FAX 06-6445-7341